

# デリカテッセン (1991)

DELICATESSEN

メディア 映画  
ジャンル SF コメディ ドラマ  
製作国 フランス  
色彩 Color  
時間 100分  
初公開日 1991/12/21  
公開情報 フジテレビ＝ヘラルド・エース提供／ヘラルド・エース＝ヘラルド  
映倫 PG12  
リバイバル 2025/01/10 [Diggin' ] (4Kレストア版)

【キャッチコピー】  
肉踊る世紀末の巴里へようこそ。

【解説】  
摩訶不思議な異次元空間を見事に創りあげ、“イメージの錬金術師”“フランスのテリー・ギリアム”との異名をとったジャン＝ピエール・ジュネ&マルク・キャロ監督による長編デビュー作。核戦争終了15年後のパリ郊外に、ポツンと残る精肉店兼アパート“デリカテッセン”。ここの住人は、いつも不気味な笑いを浮かべる親父を始め、肉食主義の曲者揃い。草も木も生えず、食べ物のないはずの近未来の精肉店で売られている肉とは……？ この映画の見所は、何と言ってもCF出身のジュネとキャロが描く映像の面白さ。水道管やダクトの中を縦横無尽に入ってゆくカメラ、大胆なまでのアングル、セックスをしているベットの軋むバネの音から、布団を叩く音などを畳みかけるように演出した緊迫感。そして近未来という設定ながら、1950年代風のクラシックな美術に、隅々まで雰囲気ピッタリのキャストとがあいまって、独特のクレイジーな映像世界を構築している。また、肉食主義対菜食主義という奇想天外な発想に加えて“赤頭巾ちゃん”や“白雪姫と7人の小人”といった童話のイメージをダブらせて、SFともファンタジーとも言える独特の映像を創り上げている。これらこの監督の持つ、独特の映像感覚はこの後に製作された「ロスト・チルドレン」でも見事なまでに受け継がれており、このテの、一種“毒”のあるハイテンポなギャグ、異様な映像世界が好きな御仁には間違いなくお勧めの1本！である。

【クレジット】

監督	ジャン＝ピエール・ジュネ	Jean-Pierre Jeunet
	マルク・キャロ	Marc Caro
製作	クロード・オサール	Claudie Ossard
脚本	ジャン＝ピエール・ジュネ	Jean-Pierre Jeunet
	マルク・キャロ	Marc Caro
	ジル・アドリアン	Gilles Adrien
撮影	ダリウス・コンジ	Darius Khondji
美術	ミリアン・クレカ・クリアコヴィッチ	Miljen Kreka Kljakovic
音楽	カルロス・ダレッシオ	Carlos D'Alessio
出演	ドミニク・ピノン	Dominique Pinon
	マリー＝ロール・ドゥーニャ	
	ジャン＝クロード・ドレフュス	Jean-Claude Dreyfus
	カリン・ヴィアール	Karin Viard

ティッキー・オルガド  
アン＝マリー・ピサニ  
エディス・カー  
チック・オルテガ

Ticky Holgado

Chick Ortega